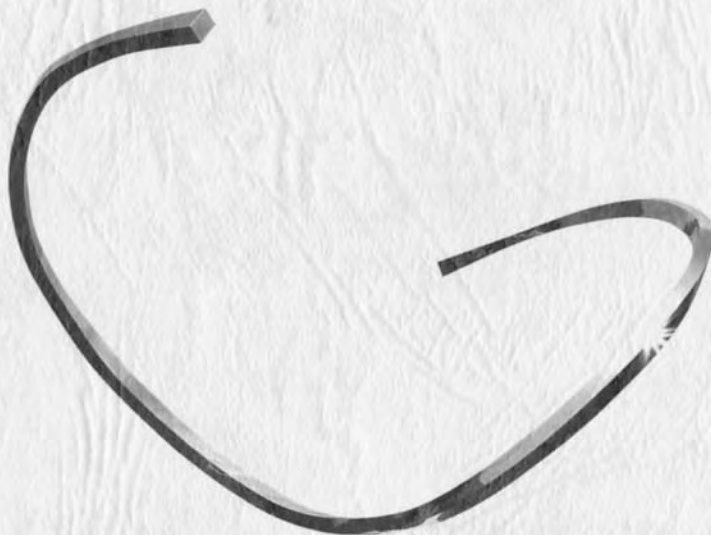


平成17年度
平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 2005



目次

I. 美術館主催事業（企画展）	4
企画展1「初公開 湘南のコレクター 麻田鷹司と現代日本画」展	
企画展2「生誕100年記念 三岸節子」展	
企画展3「生誕100年目の発見 湘南の洋画家・大貫松三」展	
美術館主催事業（特集展）	10
特集展1「湘南ゆかりの作家—鳥海青児—」展	
特集展2「湘南ゆかりの作家—二見利節—」展	
特集展3「七夕」展 七夕まつり共催	
特集展4「中野嘉之 芸術選奨文部科学大臣賞受賞記念」展	
特集展5「石井礼子展—わたしのまわり—」	
特集展6「所藏品展—鳥海青児・工藤甲人・田澤茂—」展	
特集展7「湘南ゆかりの作家—濱谷浩が見つめた冬の情景—」展	
割引制度	
美術館主催事業（教育普及）	22
教育普及1〈もの〉ワークショップクラブ	
教育普及2〈ひと〉ワークショップクラブ	
教育普及3 湘南美術散歩	
教育普及4 美術資料をしらべる	
教育普及5 インド藍の絞り染	
教育普及6 文化公園ツアー	
教育普及7 子ども七夕茶会	
教育普及8 茜色を探求する	
教育普及9 本物に出会う旅Ⅲ アート藍染ワークショップ	
教育普及10 陶の造形	
教育普及11 ガラスの造形	
教育普及12 市民アカデミー「美術館を楽しむ」	
美術館主催事業（その他）	26
臨時行事1 サマーナイトアート「ビジュアル・アートの世界」 組 織 「平塚市美術館友の会」活動	
臨時行事2 美術館コンサート	
II. 美術館共催事業	27
第28回平塚市展／第10回テーマホール・コンサート	
III. 研究活動と作品広報活用	28
IV. 実習・研修等の受け入れ	29
V. 作品と資料の管理（保存・修復）	31
作品と資料の管理（収集・貸出）	32
VI. 美術館施設の管理	34
展示室可動壁クロス張替え作業／防災訓練・消防設備点検／施設貸出	
VII. 美術館定例会議	36
美術館協議会／美術品選定評議会	
VIII. 平成17年度 美術館施設利用者等の統計	37
IX. 平塚市美術館の沿革	40
X. 美術館の組織・運営	42

I. 美術館主催事業（企画展）

■企画展について 美術館事業の中心の一つとして開催するもので、館独自のテーマによる自主企画展、関係機関との協力による共同巡回展などを開催し、優れた美術作品を紹介することを目的とする。

企画展 1

初公開 湘南のコレクター 麻田鷹司と現代日本画 展

会 期 2005年4月23日(土)～2005年5月29日(日)／開催日数32日間
主 催 平塚市美術館
観覧料 一般500円(400円)／大高生300円(240円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
担 当 勝山滋(当館学芸員)
入場者 4,367人(1日平均136人)

【企画主旨】湘南地方には古来さまざまなコレクターがおり、作家を育て文化を育んできた。今回、「湘南のコレクター」をテーマに、平塚市内の個人コレクターが秘蔵する日本画、工芸作品76点を初公開した。

主な出品作家である麻田鷹司(アサダ タカシ1928-87 京都生)は、金銀を用いた装飾性に加え、奥行きのある造形力で、日本の風景美を追求した作家である。関東でのまとまった展示は5年ぶりとなる(出品点数35点)。本展では1960年代の《明神岳》《伊豆長津呂》といった力強い造形から、代表作《佐渡》《鴨東東山図》(オウトウサンズ)まで幅広く画業の変遷をたどった。特別出品として最後の創画会出品作《相州阿夫利山》(ソシュウアフリヤマ)を展示した。

このほか生年順に、安田靉彦、前田青邨、川端龍子、山本丘人、山口蓬春、広田多津、高山辰雄、工藤甲人、岩橋英遠、平川敏夫、松尾敏男、鈴木至夫ら、戦後を担う日本画家たちの作品を展示。線描を基調とした安田靉彦、前田青邨の典雅な画風、ポッシュヤルドンなど、西洋画からの影響を感じさせる高山辰雄や工藤甲人など、13作家の多彩な美の世界を紹介した。秘蔵されていた作品、個展などにも未発表の初公開作品からは、現代日本画家の新たな一面、またその幅広い作風から、現代日本画60年の歩みを追うことができた。



カタログ表紙



麻田展チラシ

■関連印刷物

- 図録名 『初公開 湘南のコレクター 麻田鷹司と現代日本画展』
構成 テキスト：「現代日本画の誕生」草薙奈津子／「麻田鷹司論」勝山滋
図 版：67点
資料等：作家略歴、作品目録、謝辞
寸法他 A4変形版(29.7×22.5cm)／72頁／制作：印象社
発行 平塚市美術館／2005年4月

■関連事業

- ①講演会 テーマ「花開く現代日本画」
講師 草薙奈津子（当館館長）
日時他 5月14日(土) 14:00～15:30／ミュージアム・ホールにて開催／参加者78人
- ②学芸員による作品解説会 担当：勝山滋
日時他 4月29日(金) 14:00～15:00／展示室内にて開催／一般観覧者52人
5月19日(木) 14:00～15:00／展示室内にて開催／平塚市公民館5館・参加者計144人

■関連記事

- 「きょうから平塚市美術館で日本画展」神奈川新聞、2005年4月23日
- 「麻田鷹司らの幻想的世界」読売新聞、2005年4月24日
- 「話題の展覧会」美術の窓、2005年5月号
- 「麻田鷹司と現代日本画展」新美術新聞、2005年5月21日



会場風景 1



会場風景 2

企画展 2

生誕100年記念 三岸節子 展

会期 2005年7月23日(土)～2005年9月11日(日)／開催日数44日間
主催他 平塚市美術館・朝日新聞社
観覧料 一般600円(480円)／大高生400円(320円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
担当 土方明司(当館学芸員)
入場者 18,039人(1日平均410人)

【企画主旨】三岸節子(1905-1999)は、愛知県起町(現・一宮市)生まれ。1921年に上京、岡田三郎助に師事。翌年、女子美術学校2学年に編入。同校を首席で卒業後、三岸好太郎と結婚。1925年に女性で初めて春陽会に入選した。好太郎が31歳で早世後、3人の子どもを育てながら女性画家の第一人者として、また油彩画の開拓者として時代の先頭に立ち、力強い作品を描き続けた。

1954年、49歳で初めて渡欧し、南仏、スペイン、ヴェニスなどを旅行。とくに南仏カーニュのまばゆい地中海の光は、日本人が油彩を描く困難を改めて自覚する契機となった。帰国後は軽井沢のアトリエにこもり「火の山」と題された《飛ぶ鳥》連作にとり組み、画面を厚く塗りこめた。平塚にほど近い大磯にアトリエを移して以降、色彩が明るさを増し、伸びやかな筆致がみられるようになった。

1968年、本格的に風景画に取り組む決意で63歳にして再度渡仏。ブルゴーニュ地方の鄙びた村、ヴェロンにアトリエにかまえ、以後20余年をフランスで過ごす。この間、次々と傑作が生まれ、日本はもとより海外でも高い評価を受けた。1989年、体調不良のため帰国。1994年、女性洋画家初の文化功労者となる。大磯のアトリエで終生、制作意欲を失うことなく絵筆を握り、94歳で没した。

本展では三岸節子の生誕100年を記念し、各時代の代表作を一堂に展観、あらためて三岸芸術の豊かな魅力を紹介した。とくに平塚会場では、画家が大磯のアトリエで使用したイーゼルと絵具箱、また最期まで手を入れていた絶筆《花》も特別出品された。

■関連印刷物

図録名 『生誕100年記念 三岸節子展』

構成

解説文 三岸好太郎「母、三岸節子の一生」、浅野 徹「絵画の醍醐味－三岸節子の芸術」

図版 95点

資料等 扉解説：穂積利明、杉山章子、勝山滋、堤祐子 年譜と主要文献：中島利壽

寸法他 A4変形版(28.7×23.0cm)／160頁

制作 美術出版デザインセンター

発行 平塚市美術館／2005年4月



カタログ



三岸展チラシ

■関連事業

①講演会 テーマ「画家として、母として—三岸節子の一生—」

講師 三岸黄太郎（画家・三岸節子長男）

日時他 7月23日（土）14:00～15:30／ミュージアム・ホールにて開催／参加者120人

担当 土方明司（当館学芸員）

②講演会 テーマ「三岸節子の芸術について」

講師 浅野 徹（名古屋芸術大学教授）

日時他 8月27日（土）14:00～15:30／ミュージアム・ホールにて開催／参加者120人

担当 勝山 滋（当館学芸員）

③学芸員による作品解説会 担当：土方明司

日時他 全3回 7月31日（日）・8月6日（土）・14日（日）／各日14:00～15:00／展示室にて開催／参加者計150人

④団体向けレクチャー 担当：土方明司

日時他 展覧会期間中の毎週木曜日／午前中随時30分程度／ミュージアム・ホールと展示室にて開催
全2回 7月27日（木）大神公民館20人・8月11日（木）平塚市内の公民館7館合同／計97人

■関連記事

「三岸節子展 開催」神奈川新聞、2005年7月24日

「美術 大胆さのなかの繊細と繊細さのなかの大胆」中村隆夫、東京新聞、2005年8月6日

「生誕100年記念 三岸節子展（上）自画像」土方明司、神奈川新聞、2005年7月25日

「生誕100年記念 三岸節子展（中）下弦の月」勝山滋、神奈川新聞、2005年8月1日

「生誕100年記念 三岸節子展（下）タオルミナのテアトルより」土方明司、神奈川新聞、2005年8月10日

「三岸節子 ヨーロッパへの挑戦」NHK新日曜美術館、2005年4月24日



作品写真



作品写真

企画展 3

生誕100年目の発見 湘南の洋画家・大貫松三 あたたかな眼差しで描かれた絵。それらを巡る地域の人々と歴史を探求する

会期 2005年10月1日(土)～2005年12月23日(金・祝)／開催日数72日間
主催他 平塚市美術館／担当：端山聡子(当館学芸員)
観覧料 一般500円(400円)／大高生300円(240円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
入場者 7,118人(1日平均99人)

【企画主旨】 『原精一資料寄贈資料整理報告書2003』編集集中に発見された、知られざる画家・大貫松三(オオスミツツグ1905-1988)初の回顧展。生誕100年を機に作品と生涯の全貌を紹介した。松三は平塚高等女学校(現江南高校)で教えたこともある平塚市ゆかりの作家。家族や花など身近な題材を穏やかな画風で描いた。戦前は帝展や文展で活躍、戦後は画壇を離れて活動した。本展では、地域や人々、産業、歴史的背景を示す資料を作品と並置する、博物誌的な手法を試みた。作家・作品を見る手がかりを多様化させ、鑑賞者に展示物をよりよく理解してもらうことを目的とした。たとえば愛川町の撚糸機(おしき)等の実物資料を展示し、作家を育て苦しい時代には後援した、街の産業と歴史を明らかにした。また作品を愛蔵してきた人々のコメント等を掲示して、松三と交流した人々の存在を紹介した。本展開催にあたっては、市民参加型教育普及活動、〈もの〉ワークショップクラブメンバーによる、調査や準備がもとになった。また展示室には新発見の作品を追加展示するコーナーを設けた。来館者参加型の展示やテーブルトークなどを通じ、会期終了にむかって作品、資料、情報が集積される展覧会をめざした。

作家略歴：1905年神奈川県愛甲郡愛川町川北に、撚糸業を営む家に生まれる。半原小学校、厚木中学校(現厚木高校)に学ぶ。1926年、親の反対を押し切り美術学校受験のため上京。同じ境遇の原精一、須田寿の兄らと大野鉄夫の調布アトリエに寄宿。1927年、東京美術学校へ入学、和田英作に師事。在学中の1928年第9回帝展に初入選、また1930年には、厚木高女(現厚木東高校)で教鞭をとる。1931年の卒業後、平塚高女(現平塚江南高校)に図画教諭として赴任し、職場で知りあった今村フミと結婚。1936年画業に専念するため退職。1937年第1回文展で《子供達》が特選、翌38年の第2回文展で《O先生と孫》が連続特選となる。1949年に牛島憲之、山下大五郎、須田寿らと「立軌会」を設立し15年間在籍。次第に団体展への疑問を抱き、アルジェリア、エジプト、インド、ネパール、ヒマラヤなどを訪ね、東洋的なモチーフへ関心を向ける。1957年日本橋・三越で個展、1982年、銀座・内山画廊にて個展。胃がんで77歳で逝去。



カタログ



報告書



チラシ

■関連印刷物

- ①展覧会図録 図録名：『生誕100年目の発見 湘南の洋画家・大貫松三』
副題 あたたかな眼差して描かれた絵。それらを巡る地域の人々と歴史を探求する
構成 解説文：「大貫松三展開催にあたって」端山聡子（当館学芸員）／図版53点
寸法他 A4変形版(28.7×23.0cm)／48頁／制作：印象社／発行：平塚市美術館／2005年10月1日
- ②調査と展示の記録 報告書名：『生誕100年目の発見 湘南の洋画家・大貫松三展』
編集執筆 端山聡子+〈もの〉ワークショップクラブメンバー
構成 解説文：『大貫松三展報告書』の発刊にあたって 端山聡子
：「大貫松三その人生と芸術について」端山聡子
：「展示油彩画作品の年代順一覧表の作成について」端山聡子
資料等 ウィンドウズ版PDFファイル付：デジタル版による図録と報告書データ
寸法他 A4変形版(29.7×21.0cm)／104頁／制作：印象社／発行：平塚市美術館／2006年3月

■関連事業

- ①〈もの〉ワークショップクラブメンバーによる展示解説会
テーマ 「愛川町半原の撚糸業について」「大貫松三調査について」等／全11回
担当 大貫松三展準備に関わった〈もの〉ワークショップクラブメンバー
日時他 10月8日／15日／22日／29日、11月5日／12日／19日／26日、12月3日／10日／17日
土曜日各日13:30～14:00頃／展示室にて開催／総括担当：端山聡子
- ②テーブルトーク《大貫松三について話しましょう！》
テーマ 「大貫松三の人と作品について」／全6回 担当：端山聡子
日時他 10月9日／23日、11月6日／20日、12月4日／18日
各日曜日13:30～15:00頃／展示室にて開催
※大貫松三に関する資料提供の受付も併せて行った。
大貫 渉三（パリの朝市オーナーシェフ、大貫松三次男）約30人参加
荻田 豊（荻田印刷代表、郷土史家）約30人参加
平園 賢一（医師、作品コレクター）約15人参加
小島 宗二（『声調』編集長、相川町文化財団保護委員）約30人参加
小島條太郎（半原撚糸業協同組合理事長）約20人参加
佐々木直子（絵画保存修復家）約50人参加
- ③当館学芸員による団体向けレクチャー／全5回 担当：端山聡子
第1回10月18日（木）：茅ヶ崎寒川小学校研究会 計30人
第2回10月27日（木）：茅ヶ崎市立鶴嶺小学校 計110人
第3回11月24日（木）：平塚市公民館5館 計32人
第4回12月8日（木）：セカンドライフ協会 計10人（担当：勝山滋）
第5回12月13日（木）：平塚市適応教室 計13人



ものメンバー解説風景



テーブルトーク風景

■関連記事

- 「今行けば出会える、この館のこの展示ー平塚市美術館ー湘南の洋画家・大貫松三展 作家発掘、作品の所在調査、パネル作成。これ全て市民がしました」インターネットミュージアム Mトビ、2005年12月8日号
- 「市民が光をあてた展覧会『協働』の記録一冊の報告書に」湘南ホームジャーナル、2006年5月26日
- 「多様な人々が関わって実現した展覧会ー大貫松三の作家・作品調査から報告書の発行までー」文化財資料研究所ジャーナル、端山聡子、2006年3月5日

I. 美術館主催事業（特集展）

■特集展について 平成17年度より当館所蔵品による「常設展」を廃し、テーマ性をもった展示「特集展」を企画していくことになった。所蔵作品の展示を中心とするが、加えて小規模ながら美術館が注目する作家の個展も開催する。

開館日数	一 般			高校・大学生			小・中学生	未就学	特 集 展 入場者合計
	観覧者数	有料者	無料者	観覧者数	有料者	無料者	観覧者数	観覧者数	
308日間	25,724人	14,222人	11,502人	655人	612人	43人	2,861人	316人	29,556人

特集展 1

湘南ゆかりの作家－鳥海青児－

会 期 2005年3月24日(木)～2005年4月17日(日)／開催日数22日間
 主催他 平塚市美術館／担当：森岩恒明（当館学芸員）
 観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
 入場者 646人（1日平均29人）
 印刷物 鑑賞ガイド（A4版サイズ）

【企画趣旨】所蔵作品展。鳥海青児（チョウカイセイジ 1902-72平塚市生）は、藤沢中学在学中に油彩を学ぶ。1924年第2回春陽会展に初入選。戦前は春陽会で、戦後は独立美術協会にて活躍。1930年のヨーロッパ旅行以後、「日本の油絵」表現を探求し、戦前は《水田》に見られる厚塗りの手法を試みた。戦後は、日本の古美術への傾倒を強め、その造形的な特徴を表現に取り入れ、作品は抽象化・単純化の傾向を見せた。

本展は、鳥海青児が古美術の影響を受けて目指した表現にスポットをあて、戦後作品を中心に展示を行った。特徴としては、対象を正面からとらえ、形態を簡略化する表現が取り入れられている。立体的な造形物を正面から描いた作品《天津のフランス寺院》や《アッシジ》、幾何学的なフォルムを強調した静物画《メキシコの西瓜》《伊賀瓶子とメロン》など、造形そのものに強く関心が向けられた作品を紹介した。



スペイン風景



二見利節展リリース

■作品リスト・出品点数 総計32点

作家名	作 品 名	制作年	初出展覧会	材 質	サイズ(mm)	所蔵
鳥海 青児	道化	1939年	鳥海青児作品展	油彩・キャンバス	454×380	当館蔵
鳥海 青児	アカシア	1941年	第19回春陽会展	油彩・キャンバス	998×807	当館蔵
鳥海 青児	北京天壇	1941年		油彩・ボード	272×210	当館蔵
鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942年		油彩・キャンバス	431×304	当館蔵
鳥海 青児	オランダ水差しとレモン	1949-51年		油彩・厚紙	183×266	当館蔵
鳥海 青児	段々畑	1952年	第1回日本国際美術展	油彩・キャンバス	802×652	当館蔵
鳥海 青児	狸穴の森	1954年	鳥海青児作品展	油彩・キャンバス	533×460	当館蔵
鳥海 青児	川沿いの家	1954年	鳥海青児作品展	油彩・キャンバス	725×534	当館蔵
鳥海 青児	黄色い人	1956年	創立25周年記念第24回 独立美術協会展	油彩・キャンバス	608×729	当館蔵
鳥海 青児	壁の修理	1959年	第27回独立美術協会展	油彩・キャンバス	727×999	当館蔵
鳥海 青児	壁の修理	1959年	第27回独立美術協会展	油彩・キャンバス	725×1002	当館蔵
鳥海 青児	スペイン風景	1959年		油彩・キャンバス	322×412	当館蔵
鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957年	第4回日本国際美術展	油彩・合板	728×602	当館蔵
鳥海 青児	ピカドール	1958年	鳥海青児展 (神奈川県 立近代美術館)	油彩・キャンバス	912×610	当館蔵
鳥海 青児	大理石をかつぐイタリア人 (大理石をはこぶ男)	1958年		油彩・キャンバス	413×320	当館蔵
鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959年		油彩・キャンバス	530×456	当館蔵
鳥海 青児	はにわ	1959年		油彩・キャンバス	412×273	当館蔵
鳥海 青児	草花	1950-60年		油彩・キャンバス	457×379	当館蔵
鳥海 青児	メキシコの西瓜 (メキシコ風の 西瓜)	1961年		油彩・キャンバス	612×726	当館蔵
鳥海 青児	石だたみ (印度ベナレス)	1962年	第30回独立美術協会30 周年記念展	油彩・キャンバス	893×1310	当館蔵
鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964年	第6回現代日本美術展	油彩・キャンバス	728×502	当館蔵
鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971年	第39回独立美術協会展	油彩・キャンバス	608×504	当館蔵
鳥海 青児	フラメンコ	1972年		油彩・キャンバス	454×382	当館蔵
鳥海 青児	天壇	1939年		鉛筆、パステル、水彩・紙	355×251	当館蔵
鳥海 青児	うづくまる	1954年		鉛筆、パステル、水彩・紙	225×153	当館蔵
鳥海 青児	顔をかくす	1956年		コンテ、パステル、油彩・紙	313×223	当館蔵
鳥海 青児	アッシジ	1957年		鉛筆、パステル・紙	251×185	当館蔵
鳥海 青児	ルカの寺院	1957年		鉛筆、パステル・紙	183×253	当館蔵
鳥海 青児	闘牛士 (4)	1958年頃		鉛筆、パステル・紙	307×235	当館蔵
鳥海 青児	石をかつぐ	1958年頃		鉛筆・紙	309×243	当館蔵
鳥海 青児	鐘馗	不詳		紙本着色	351×230	当館蔵
鳥海 青児	長刀弁慶	不詳		紙本着色	210×240	当館蔵

特集展 2

湘南ゆかりの作家－二見利節－

会 期 2005年3月30日(水)～2005年5月29日(日)／開催日数52日間
 主催他 平塚市美術館／担当：郡司亜也子(当館学芸員)
 観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
 入場者 4,161人(1日平均80人)
 印刷物 鑑賞ガイド(A4版サイズ)

【企画趣旨】二見利節(フタミトシキ 横浜生)は、井上三綱に師事。1933年第11回春陽会展に初入選、第1回東光会展にも入選。1938年第16回春陽会賞を受賞し、同年と翌年に文部省美術展の特選を受賞した。戦後は国画会に出品するが、ほとんどは二宮のアトリエにこもって制作に没頭する日々を送った。クレパスを用いた鮮やかな色彩による幻想的な画風に特徴がある。本展では春陽会出品作《三人の女》(当館蔵)、《傘屋》(当館寄託)など、戦前期の作品をはじめ、戦後すぐの《孔雀鳩》《黄色い花》(共に当館寄託)、1950年代後半以降さかんに制作された小作品とルーフィング巻物、国画会に出品された《工作机》《離荘の地》(共に当館寄託)など、作品約30点に個人蔵の作品4点を加えて紹介し、二見の画業の歩みをたどった。

■作品リスト・出品点数 総計34点

No.	作家名	作 品 名	材 質	制作年	所蔵
1	二見 利節	沢崎節子像	油彩・キャンバス	1934年	当館蔵
2	二見 利節	傘屋	油彩・キャンバス	1938年	当館寄託
3	二見 利節	ニコライ堂	油彩・キャンバス	1938年	個人蔵
4	二見 利節	栗	油彩・キャンバス	1938年	個人蔵
5	二見 利節	三人の女	油彩・キャンバス	1939年	当館蔵
6	二見 利節	集い	油彩・キャンバス	1940年	当館蔵
7	二見 利節	スケッチブック	—	1940年頃	当館蔵
8	二見 利節	男鹿の景	油彩・キャンバス	1941年頃	当館蔵
9	二見 利節	長野原の紅葉	油彩・キャンバス	1942年	当館蔵
10	二見 利節	孔雀鳩	油彩・板	1947年頃	当館寄託
11	二見 利節	黄色い花	油彩・キャンバス	1951年頃	当館寄託
12	二見 利節	二宮風景	コールドタール、インク、ろう・紙	1955年	個人蔵
13	二見 利節	工作机	油彩・キャンバス	1956年	当館寄託
14	二見 利節	静物(ポットと果物)	パステル、水彩・紙	1958年	当館蔵
15	二見 利節	牛	パステル、クレヨン、コンテ・紙	1958年頃	当館蔵
16	二見 利節	麦 在る成る	墨、ろう・紙	1960年頃	当館寄託
17	二見 利節	麦	色鉛筆、水彩、ろう・紙	1960年頃	当館寄託
18	二見 利節	離荘の地	油彩・紙	1967年	当館寄託
19	二見 利節	宙	パステル・紙(ルーフィング)	1965-70年	当館蔵
20	二見 利節	群像	パステル・紙(ルーフィング)	1965-70年	当館蔵
21	二見 利節	彼岸	パステル・紙(ルーフィング)	1965-70年	当館蔵
22	二見 利節	人生の羅漢	パステル・紙(ルーフィング)	1970年	当館蔵
23	二見 利節	ナナカマド	油彩・キャンバス	1970年	当館蔵
24	二見 利節	箱根 芦ノ湖	油彩・キャンバス	1970-75年	当館蔵
25	二見 利節	風景	油彩・キャンバス	1970-75年	当館蔵
26	二見 利節	羅上	パステル、水彩・紙	1971年	当館蔵
27	二見 利節	羅上	インク、水彩、胡粉・紙	1971年	当館蔵
28	二見 利節	玄武蘇上	油彩・キャンバス	1972年	当館蔵
29	二見 利節	マドモアゼル美保	油彩・キャンバス	1973年	当館蔵
30	二見 利節	スケッチブック(四国旅行)	—	1973年	当館蔵
31	二見 利節	アルジェ風景	油彩・キャンバス	1973年頃	当館蔵
32	二見 利節	王家の谷	油彩・キャンバス	1974年	個人蔵
33	二見 利節	瑞雲のある牡丹図	油彩・キャンバス	1974年頃	当館寄託
34	二見 利節	裸婦のいる風景	油彩・キャンバス	1975年	当館蔵

特集展 3

七夕展 七夕まつり共催

会 期 2005年6月4日(土)～2005年7月18日(月・祝)／開催日数39日間
主催他 平塚市美術館／担当：森岩恒明(当館学芸員)
観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
入場者 2,402人(1日平均62人)
印刷物 鑑賞ガイド(A4版サイズ)

【企画趣旨】毎年7月に行われる「湘南ひらつか七夕まつり」は、仙台市、安城市の七夕まつりと並び、全国的に知られている。この平塚市の七夕まつり開催期間にあわせ、地元作家や美術愛好者と共に七夕まつりを盛り上げるため、本展では「夏と七夕」にちなんだ絵画・工芸作品を展示した。

展示は二つのテーマからなり、テーマ1：「夏の風景」では、岸田劉生《永日小品》、今村紫紅《瀧》、中村琢二《南伊豆》など、当館所蔵の日本画と洋画作品約30点を展示。またテーマ2：「竹の造形」では、平塚市近隣で活躍中の竹工芸作家2名を紹介。植松竹邑(ウエツチクヨ 厚木市在住)の《風Ⅱ》《風Ⅲ》、藤塚松星(フジツカシヨウセイ 大磯町在住)の《天の河》《笹舟》など10作品を展示した。関連事業では「子ども七夕茶会」を開催した(→教育普及の項参照)。

■作家略歴

植松竹邑：1979年まで日本伝統工芸展に出品。近年は「風」をテーマに現代的な造形に取り組む。2004年に「竹の造形-コッツェンコレクション展」に出品。

藤塚松星：日本伝統工芸展で主に作品を発表。1999年、パリの「日本の工芸『今』100選」展に出品するなど、海外でも活躍している。

■関連事業

○作品解説会 担当：森岩恒明(当館学芸員)

日時他 6月7日(火) 各日14:00～15:00／展示室にて開催／参加者計10人

6月14日(火) 展示室にて開催／藤沢市遠藤公民館30人

7月1日(金) 展示室とミュージアム・ホールにて開催／相模原市淵野辺東小学校162人

■関連記事

「七夕にちなんだ作品」読売新聞、2005年6月8日

「夏と七夕思い表現 絵画や工芸の作品展」神奈川新聞、2005年6月16日

「ひとあし早く七夕を味わう 特集『七夕展』」湘南ホームジャーナル、2005年6月24日

「初めての七夕体験」タウンニュース、2005年7月14日



七夕展会場風景 1



七夕展会場風景 2

■七夕展 作品リスト・出品点数 総計38点

■竹の造形

作家名	生没年	作 品 名	制作年	材質技法	サイズ(mm)	所蔵
植松 竹邑	1947-	竹の精	1995年	真竹	1500*2000*200	個人蔵
植松 竹邑	1947-	風Ⅰ	1999年	真竹、矢竹	1620*1350*100	個人蔵
植松 竹邑	1947-	風Ⅱ	2000年	紫竹、籐、漆	1500*1800*150	個人蔵
植松 竹邑	1947-	風Ⅲ	2002年	紫竹、漆、紙	1500*1800*150	個人蔵
藤塚 松星	1949-	羽ばたく	1979年	真竹	600*600*800	個人蔵
藤塚 松星	1949-	天の河	1989年	真竹、籐	210*350*200	個人蔵
藤塚 松星	1949-	街	1994年	真竹	260*120*370	個人蔵
藤塚 松星	1949-	笹舟	1997年	真竹	300*480*90	個人蔵
藤塚 松星	1949-	竹韻	1998年	真竹	310*150*130	個人蔵
藤塚 松星	1949-	うねり	1999年	真竹	470*600*470	個人蔵

■夏の風景

作家名	生没年	作 品 名	制作年	材質技法	サイズ(mm)	所蔵
井上 三綱	1899-1981	はたおり	1956年	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス	728*532	当館蔵
井上 三綱	1899-1981	叩かれた蚊	不詳	墨、弁柄、胡粉・紙	270*370	当館蔵
今村 紫紅	1880-1916	瀧	1915年	紙本墨画	1230*502	当館蔵
上村 松園	1875-1949	享保美人夕暮之図(下図)	1908年	紙本着色	1020*400	個人蔵
奥村 土牛	1889-1990	朝顔	不詳	鉛筆・紙	352*438	個人蔵
岸田 劉生	1891-1929	永日小品	1926年	紙本着色	1369*344	当館蔵
工藤 甲人	1915-	天星(アンドロメダ)	1981年	顔彩・紙	465*870	当館蔵
國領 経郎	1919-1999	たち葵	1970年	鉛筆・紙	323*233	当館蔵
國領 経郎	1919-1999	たち葵	1970年頃	鉛筆・紙	332*240	当館蔵
國領 経郎	1919-1999	たち葵	1970年頃	鉛筆・紙	332*240	当館蔵
椿 貞雄	1896-1957	鶴沼風景	1921年	油彩・キャンバス	455*530	当館蔵
中村 貞以	1900-1982	螢	不詳	絹本着色	1274*417	当館蔵
古川 恂	1922-	星と子供	1964年	油彩・キャンバス	907*725	当館蔵
山本 鼎	1882-1946	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936年	油彩・キャンバス	321*411	当館蔵
山本 丘人	1900-1986	島の女	1935年頃	絹本着色	1131*361	当館蔵
中村 琢二	1897-1988	南伊豆	1984年	油彩・キャンバス	705*1619	当館蔵
中村 琢二	1897-1988	奥大井	1983年	油彩・キャンバス	383*911	当館蔵
真垣 武勝	1902-1983	尾瀬	1963年	油彩・キャンバス	912*773	当館蔵
真垣 武勝	1902-1983	東伊豆 富戸	1966年頃	油彩・キャンバス	603*720	当館蔵
松林 千里	1883-1966	嵐の後	1940年	油彩・キャンバス	234*330	当館蔵
松林 千里	1883-1966	鞘之浦	1910年頃	油彩・キャンバス	653*802	当館蔵
松林 千里	1883-1966	岩	不詳	油彩・板	244*330	当館蔵
松本 節	1915-1944	庭	1930年頃	油彩・キャンバス	530*655	当館蔵
松本 節	1915-1944	つた繁る頃	1933年	油彩・キャンバス	1169*910	当館蔵
松本 節	1915-1944	ひまわりと雲	1937年	油彩・キャンバス	650*910	当館蔵
松本 節	1915-1944	雛芥子	1930年頃	油彩・キャンバス	380*455	当館蔵
松本 節	1915-1944	稲村ヶ崎から富士を望む	不詳	油彩・板	240*330	当館蔵
森田 勝	1904-1944	アトリエからの眺め	不詳	水彩・紙	240*318	当館蔵

特集展 4

中野嘉之 芸術選奨文部科学大臣賞受賞記念展

会期 2005年7月23日(土)～2005年9月19日(月・祝)／開催日数51日間
主催他 平塚市美術館／担当：勝山滋(当館学芸員)
観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
入場者 15,951人(1日平均313人)
印刷物 図録：『中野嘉之 芸術選奨文部科学大臣賞受賞記念展』
寸法他：22.5×29.7cm／64頁／印刷：文化堂印刷／発行：平塚市美術館 2005年7月

【企画趣旨】中野嘉之(カノヨシキ1946- 活躍中 京都生)は現在、箱根のアトリエで制作をしている日本画家。多摩美術大学で横山操、加山又造の薫陶を受け、在学中から新制作協会展に入選を重ねる。1974年から創画会に出品。日本画の未来を模索する気鋭の作家たちと「横の会、目展」を結成し活躍した。1990年創画会を脱退。各地で個展、グループ展を開催し、現代日本画を担う中心作家として注目を集めている。鳥や動物をテーマに、近年は中国や日本の自然に共鳴し、壮大な画面に高い品格が漂う大作を発表、平成16年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞している。公立美術館で初の個展となる本展では、屏風を中心とする46点により1980年代から現在に至る画家の歩みを一堂に展覧、大胆かつ繊細な作家の織りなす日本画の今を紹介した。

■関連事業

○対談「中野嘉之氏にきく」

対談者：話し手・中野嘉之(日本画家)
聞き手・勝山滋(当館学芸員)
日時：8月7日(日) 13:30～15:30
ミュージアム・ホールにて開催

○作家 中野嘉之氏(日本画家)による作品解説会

日時：全2回 8月20日(土)・9月10日(土)
各日14:00～15:00
展示室にて開催／担当：勝山滋



カタログ

■関連記事

「風景画を超える象徴性 中野嘉之展」草薙奈津子、新美術新聞、2005年7月21日
「美術 大胆さのなかの繊細と繊細さのなかの大胆」中村隆夫、東京新聞、2005年8月6日



会場風景 1



出品作品

■中野嘉之展 作品リスト・出品点数 総計44点

No.	作 品 名	制作年	寸 法	素材材質	初出展覧会	所 蔵
4	響	1994年	162.0×130.3	紙本着色	個展(揺れる幻映)	
7	草炎-鶏頭	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
6	冬日	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
8	草炎-蓼	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
9	白炎-鶯	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
10	白炎-梟	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
1	樹-風の音	1988年	227.3×200.0	紙本着色	第15回創画展	侑丸栄堂
5	秋日	1994年	228.0×120.5	紙本着色	個展(揺れる幻映)	箱根芦ノ湖 成川美術館
12	緑濤日月図(りょくとうじつげつず)	1997年	各208.0×420.0	紙本着色(六曲一双)	第2回目展	
3	揺れる幻映	1994年	各208.0×420.0	紙本着色・金地 (六曲一双)	個展(揺れる幻映)	
36	刻	2004年	190.5×690.0	紙本着色(六曲一双)	天・空・水 中野嘉之展	
35	蕭蕭(しょうしょう)	2004年	208.5×840.0	紙本着色(六曲一双)	天・空・水 中野嘉之展	
37	流光	2004年	203.0×820.0	紙本着色(六曲一双)	天・空・水 中野嘉之展	
22	映-三ヶ月湖	1999年	180.0×194.0	紙本着色	第4回目展	
13	金灯寺路(太行山八景)	1997年	100.0×65.2	紙本着色		
14	太行暮色(太行山八景)	1997年	100.0×65.2	紙本着色		
17	太行水鏡(太行山八景)	1997年	100.0×65.2	紙本着色		
18	金灯寺薄光(太行山八景)	1997年	100.0×65.2	紙本着色		
21	生命の讃歌-遊魚	1998年	151.0×247.0	絹本着色・金箔・墨 (四曲一隻)	第3回目展	
38	丹後夕照	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
39	丹後春光	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
40	津居山湾への道	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
41	丹後波濤Ⅰ	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
43	丹後波濤Ⅲ	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
44	丹後波濤Ⅳ	2004年	65.2×100.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
23	瀑布Ⅰ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
24	瀑布Ⅱ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
25	瀑布Ⅲ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
26	瀑布Ⅳ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
27	瀑布Ⅴ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
28	瀑布Ⅵ	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
33	風韻幼鹿図	2001年	190.0×842.0	紙本着色(六曲一双)	第6回目展	
29	生命の讃歌-猿	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
30	生命の讃歌-狐	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
31	生命の讃歌-梟	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
32	生命の讃歌-鶴	2000年	220.0×110.0	紙本着色	個展(揺れる風と音の協奏)	
2	樹濤	1992年	208.5×423.0	麻紙着色・金箔・銀箔 (六曲一隻)	第10回横の会展	
34	蕭蕭Ⅳ~Ⅵ	2004年	200.0×110.0	紙本着色	天・空・水 中野嘉之展	
11	寂-樹	1996年	208.0×380.0	紙本着色(四曲一隻)	個展(揺れる幻映)	

特集展 5

石井礼子展－わたしのまわり－

会期 2005年9月17日(土)～2005年11月23日(水・祝)／開催日数58日間
主催他 平塚市美術館／担当：土方明司(当館学芸員)
観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
入場者 6,014人(1日平均104人)

【企画趣旨】石井礼子(1974-)は、現在活躍中の新進作家。幼少期より絵画に強い興味を示し、自由な教育方針を旨とする児童画教室で個性を伸ばしていった。高校卒業までに、各種絵画コンクールで海外招待を含む賞を多数受賞、早咲きの才能に将来を期待された。女子美術大学在学中に新制作展に入選。2000年には新制作展・新作家賞を受賞、以後3年連続して同賞を受賞。2004年には若干30歳で同会会員となるなど、有望な新人として知られている。

作品の特徴は、自分の周囲の世界に徹底してこだわり、それを独自の視点と技法で描ききっていること。日本画の素材である雲肌麻紙に、割り箸と墨で描く手法は児童画教室で知ったもの。日常生活の情景を俯瞰的なアングルでとらえ、偏愛的なほど細部まで描きこむが、これは幼児～少女期の体験・記憶が、現在の自分の私的風景を形成したとの思いによる。モノクロームの大画面に展開する入念な描写と変幻自在な視点は、子どもの時より慣れ親しんだ手法に過ぎない。「作品のテーマは『私の周囲(まわり)』です。ごくあたりまえの日常生活を執拗に描いてゆくことで、自分自身の存在を明らかにしたいと思っている」と石井は語る。

平凡な日常風景がスリリングでポップな情景に一転し、鑑賞者をまるで迷路の只中に立たせるような作品は、我々に「今、在ること」の不思議を考えさせ、麻痺しがちな日常の感覚に新鮮な刺激を与えてくれる。本展ではその不思議で楽しく、ちょっぴり怖い石井ワールドを紹介した。

■関連印刷物 展覧会図録『石井礼子展－わたしのまわり－』

テキスト：「わたしのまわり－石井礼子の世界－」土方明司

資料他：作品目録、年譜、文献／デザイン：高橋歩(資生堂宣伝部)

寸法他：22.5×29.7cm/64頁・図版23点／文化堂印刷／発行：平塚市美術館 2005年7月

■関連事業

○当館学芸員によるギャラリートーク(展示室にて開催)担当：土方明司

日時他：全3回 10月9日・10月23日・11月9日／日曜日各日14:00～15:00

○団体向けレクチャー

日時：展覧会期間中の毎週木曜日／午前中随時30分程度

場所：ミュージアム・ホールと展示室にて開催

- ① 9月22日(木)：平塚市立富士見小学校150人
担当：端山聡子(当館学芸員)
- ② 9月24日(土)：湘南市民美術会32人
担当：土方明司(当館学芸員)
- ③ 10月5日(木)：山梨県 日川小学校53人
担当：土方明司・森岩恒明
- ④ 10月18日(火)：平塚市立神田小学校92人
担当：土方明司・端山聡子
- ⑤ 11月10日(木)：平塚市立神田小学校111人
担当：土方明司



カタログ表紙

■【作品リスト・出品点数】総計50点（+版画2点、絵はがき約30点）

No.	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材材質
1	とうもろこし	1994年頃	36.5×25.0	グアッシュ
2	自分Ⅰ	1994年	65.0×91.0	木炭・木炭紙
3	自分Ⅲ	1994年	65.0×91.0	木炭・木炭紙
4	自分	1994年	22.5×16.0	墨・麻紙
5	自分Ⅱ	1995年	60.0×90.0	木炭・木炭紙
6	木(切り絵)	1995年	38.0×50.0	油彩・紙
7	生きている(切り絵)	1995年	103.0×291.2	油彩・紙
8	私の見ている風景	1995年	59.4×42.0	墨・麻紙
9	私の周囲(歯みがき)	1996年	152.0×211.5	墨・麻紙
10	私の周囲(お台所)	1996年	130.0×162.1	墨・麻紙
11	私の存在	1997年	116.7×97.0×3点	油彩・キャンパス
12	私の周囲(マイキッチン)	1997年	152.0×211.5	墨・麻紙
13	私の周囲(お風呂場)	1998年	152.0×211.5	墨・麻紙
14	私の周囲(食べる人)	1998年	211.5×152.0	墨・麻紙
15	佐渡に行きたい	1998年	76.0×90.0	着彩、墨・麻紙
16	私の周囲(クリーン大作戦Ⅰ)	1999年	152.0×211.5	墨・麻紙
17	私の周囲(甥の誕生Ⅰ)	2000年	152.0×211.5	墨・麻紙
18	私の周囲(甥の誕生Ⅱ)	2000年	152.0×211.5	墨・麻紙
19	食べられない人	2000年	90.9×116.7	墨・麻紙
20	私の周囲(ベランダⅠ)	2001年	152.0×211.5	墨・麻紙
21	私の周囲(ベランダⅡ)	2001年	211.5×152.0	墨・麻紙
22	シクラメン	2002年	24.3×33.4	着彩、墨・麻紙
23	食卓	2002年	45.5×37.9	着彩、墨・麻紙
24	私の周囲(忙しい日Ⅰ)	2002年	211.5×153.0	墨・麻紙
25	私の周囲(忙しい日Ⅱ)	2002年	211.5×153.0	墨・麻紙
26	ただいま	2002年	52.0×44.0	墨・麻紙
27	電話する人	1998-2003年	110.0×78.0	墨・麻紙
28	寝そべる人	1998-2003年	73.0×113.0	墨・麻紙
29	階段ねこ	2003年	45.5×37.9	墨・麻紙
30	自転車ねこ	2003年	24.3×33.4	着彩、墨・麻紙
31	私の周囲(線路はつづくよ)	2003年	211.5×153.0	墨・麻紙
32	心のもよう・まっすぐに	2004年	72.5×60.5	墨・麻紙
33	心のもよう・うねうねと	2004年	60.5×72.5	墨・麻紙
34	心のもよう・きままに	2004年	60.5×72.5	墨・麻紙
35	あじさいネコ	2004年	33.3×24.2	墨・麻紙
36	黒猫のタマ	2004年	23.0×24.0	着彩
37	竹猫	2004年	22.0×16.0	墨・麻紙
38	どうぞよろしく	2004年	41.0×28.0	墨・麻紙
39	盆栽ネコ	2004年	18.0×19.0	着彩、墨・麻紙
40	私の周囲(いただきます)	2004年	211.5×153.0	墨・麻紙
41	私の周囲(花咲く 梅)	2005年	33.4×24.3	墨・麻紙
42	私の周囲(花咲く さくら)	2005年	29.5×21.0	墨・麻紙
43	私の周囲(花咲く 椿)	2005年	18.0×14.0	着彩、墨・麻紙
44	私の周囲(花咲く 白い花)	2005年	26.0×25.9	着彩、墨・麻紙
45	私の周囲(花咲く シクラメン)	2005年	33.4×24.3	着彩、墨・麻紙
46	私の机(改・はじめまして)	2003年('05加筆)	27.3×22.0	着彩、墨・麻紙
47	私の周囲(おなかすいた)	2004年('05加筆)	153.0×211.5	墨・麻紙
48	マイリラックスタイム	1999年('05加筆)	60.0×71.0	墨・麻紙
49	ファミリーレストランⅠ	2005年	33.3×53.0	墨・麻紙
50	ファミリーレストランⅡ	2005年	33.3×53.0	墨・麻紙

特集展 6

所蔵品展－鳥海青児・工藤甲人・田澤茂－

会 期 2005年9月17日(土)～2005年12月23日(水・祝)／開催日数82日間
 主催他 平塚市美術館／担当：郡司亜也子(当館学芸員)
 観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
 入場者 7,488人(1日平均102人)

■出品作家紹介

■鳥海 青児 (Seiji CHOKAI 1902-1972 明治35-昭和47)

平塚市須賀に生まれ、藤嶺中学時代から油彩を学ぶ。1924年、第2回春陽会展に《平塚風景》他で初入選。1930年渡欧。1933年帰国後の第11回春陽会展で滞欧作が展示され、同会会員となる。1943年、独立美術協会会員。1945年鎌倉市雪ノ下に転居(～1952年)。ヨーロッパ、エジプト、インドなどに取材した作品を発表。厚塗りで重厚感のあるマチエールで異彩をはなち、戦後は形の単純化による抽象表現に移行した。

■工藤 甲人 (Kojin KUDO 1915- 大正4-)

青森県弘前市生まれ。1935年、川端画学校日本画科で学んだ後、福田豊四郎に師事。戦後一時制作を中断するが、50年再開。翌年、第15回新制作展で新作家賞を受賞。ポッシュやブレイクの作品に興味をもつ。1973年東京芸術大学イタリア初期ルネサンス壁画調査団に加わり渡欧。樹木や鳥、昆虫、枯葉などをモチーフに幻想的な世界を描き、宗教感や生命感の漂う心象風景に昇華させる。1962年以降平塚市で活動を行う。

■田澤 茂 (Shigeru TAZAWA 1925- 大正14-)

青森県南津軽郡生まれ。1948年上京し平塚市ついで辻堂に住む。1951年、子供絵画教室どんぐり美術会を開設。1953年、猪熊弦一郎主宰の純粋美術研究所に入会。同年、新制作協会展に《トンネルのある長屋》で初入選。1975年第18回安井賞展に《冬の詩》を出品。民話や神仏群像、鬼や妖怪等を題材に、ユーモアとバイタリティあふれる作品を発表。パラフィンの利用、油絵具とフェルトペンの併用、墨画など様々な技法も追求している。

■作品リスト・出品点数 総計17点

No.	作家名	作品名	材質	制作年	所蔵	展示期間
1	鳥海青児	道化	油彩・キャンバス	1939年	当館蔵	全期間
2	鳥海青児	蘇州風景	油彩・キャンバス	1939年	当館蔵	全期間
3	鳥海青児	段々島	油彩・キャンバス	1952年	当館蔵	全期間
4	鳥海青児	川沿いの家	油彩・キャンバス	1954年	当館蔵	全期間
5	鳥海青児	黄色い人	油彩・キャンバス	1956年	当館蔵	全期間
6	鳥海青児	大理石をかつぐイタリア人	油彩・キャンバス	1958年	当館蔵	全期間
7	鳥海青児	石だたみ(印度ベナレス)	油彩・キャンバス	1962年	当館蔵	全期間
8	工藤甲人	樹木のうた	顔彩・紙	1956年	当館蔵	全期間
9	工藤甲人	蝶の階段	顔彩・紙	1967年	当館蔵	11月26日～12月23日
10	工藤甲人	霧中夢	顔彩・紙	1969年	当館寄託	9月17日～11月23日
11	工藤甲人	次郎雲	顔彩・紙	1970年	当館蔵	9月17日～11月23日
12	工藤甲人	杉	顔彩・紙	1983年	当館蔵	9月17日～11月23日
13	工藤甲人	わが壁に	顔彩・紙	1985年	当館蔵	11月26日～12月23日
14	工藤甲人	残像図	顔彩・紙	1986年	当館蔵	11月26日～12月23日
15	田澤 茂	民話 紋	油彩、パラフィン・ボード	1964年	当館蔵	全期間
16	田澤 茂	365日	油彩、インク・キャンバス	1968年	当館蔵	全期間
17	田澤 茂	太陽の街	油彩、インク・キャンバス	1970年	当館蔵	全期間

特集展 7

湘南ゆかりの作家—濱谷浩が見つめた冬の情景—

会 期 2005年11月26日(土)～2005年12月23日(金・祝)／開催日数24日間
 主催他 平塚市美術館／担当：郡司亜也子(当館学芸員)
 観覧料 一般200円(160円)／大高生100円(80円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第2、4土曜日高校無料
 入場者 1,547人(1日平均65人)

【企画趣旨】写真家、濱谷浩は東京都台東区生まれ。20世紀日本のドキュメンタリー写真を代表し、世界的にも知られる写真家。16歳の時、父の友人からカメラを贈られ写真を始め、実用航空研究所、オリエンタル写真工業株式会社を経て、1937年フリーランスとなり、1952年以降は大磯に住みながら活動を展開した。報道写真から出発し、民俗学の視点をとり入れた記録的な作品、日本や日本人をみつめた作品、世界に残された大自然を題材にした作品など、人間と風土との関わりを中心に写真を撮り続けた。本展では、濱谷浩(ハヤヒロシ1915-1999)のデビュー作である第一写真集『雪国』と、第三写真集『裏日本』に掲載された作品から、当館所蔵の写真作品約50点を展示した。『雪国』では豪雪地新潟の風俗と風土、特に古い集落・桑取谷での若木迎え、鳥追いといった旧暦正月風俗をとらえた。また『裏日本』では、北は青森・竜飛岬、西は山口・見島まで、厳しい気候や風土に根ざした日本海側の生活が見つめられている。人間の営みと暮しの在り様を探求する濱谷の眼を、写された冬の情景により紹介した。

■関連事業

○スライド&展示鑑賞会 テーマ：「正月と冬のいとなみ—濱谷浩の作品から」

日時他 全3回 12月3日(土)・17日(土)／各日13:00～13:30／展示室にて開催
 担当：郡司亜也子

■作品リスト・出品点数 総計44点

No.	作家名	作 品 名	所収	撮影地(当時地名)	撮影年	所蔵
1	濱谷 浩	地藏様年始	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940年	当館蔵
2	濱谷 浩	ホンヤラ洞にゆく子供たち	雪国	新潟県十日町在猿蔵	1956年	当館蔵
3	濱谷 浩	ホンヤラ洞で歌う子供たち	雪国	新潟県十日町在猿蔵	1956年	当館蔵
4	濱谷 浩	草鞋を売る老婆	雪国	新潟県十日町本町	1956年	当館蔵
5	濱谷 浩	雁木下をゆくゴゼ	雪国	新潟県高田市東本町	1956年	当館蔵
6	濱谷 浩	村の全景	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
7	濱谷 浩	アキの方向に向かって歩きだす	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
8	濱谷 浩	若木迎えの山に入る	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
9	濱谷 浩	若木に祈る	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
10	濱谷 浩	シン木を立てる	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
11	濱谷 浩	スイサンボ	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
12	濱谷 浩	餅をつく	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
13	濱谷 浩	マイダマをつくる	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
14	濱谷 浩	太刀をつくる	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
15	濱谷 浩	十五日夜のおまいり	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
16	濱谷 浩	村の子供	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
17	濱谷 浩	鳥追いにでる	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
18	濱谷 浩	歌ってゆく鳥追い	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
19	濱谷 浩	水浴びする河原	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵

No.	作家名	作 品 名	所収	撮影地(当時地名)	撮影年	所蔵
20	濱谷 浩	理趣文の点読	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
21	濱谷 浩	太刀をもつ子	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
22	濱谷 浩	焼草集めの子供	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
23	濱谷 浩	嫁祝い	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
24	濱谷 浩	賀祝い	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
25	濱谷 浩	フレゴト	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
26	濱谷 浩	火を移す	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
27	濱谷 浩	サイの神の行事に集まった人たち	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
28	濱谷 浩	タイマツのうちあい	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
29	濱谷 浩	朝の祝餅	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
30	濱谷 浩	寺参り	雪国	新潟県中頸城郡桑取村	1940-1949年	当館蔵
31	濱谷 浩	津軽の男	裏日本	青森県北津軽郡中里町近郷	1955年	当館蔵
32	濱谷 浩	共同井戸	裏日本	秋田県男鹿半島椿	1955年	当館蔵
33	濱谷 浩	港のない漁村	裏日本	青森県東津軽郡三厩村竜飛	1955年	当館蔵
34	濱谷 浩	海の家族	裏日本	秋田県男鹿半島門前	1955年	当館蔵
35	濱谷 浩	歳の市	裏日本	青森県五所川原市	1955年	当館蔵
36	濱谷 浩	雁木	裏日本	新潟県十日町市	1956年	当館蔵
37	濱谷 浩	氷の下の地曳き網	裏日本	秋田県八郎潟三倉鼻沖	1955年	当館蔵
38	濱谷 浩	停留所	裏日本	石川県河北郡指江	1955年	当館蔵
39	濱谷 浩	餅つくり	裏日本	新潟県小千谷市	1956年	当館蔵
40	濱谷 浩	雲と波と雪と家	裏日本	新潟県新潟市広小路浜	1955年	当館蔵
41	濱谷 浩	海の夫婦	裏日本	青森県西津軽郡鯨ヶ沢町	1955年	当館蔵
42	濱谷 浩	赤子を背負った子	裏日本	青森県東津軽郡大平	1955年	当館蔵
43	濱谷 浩	山の暮らし	裏日本	青森県東津軽郡大川平	1955年	当館蔵
44	濱谷 浩	雪に暮れる部落	裏日本	青森県東津軽郡三厩村竜飛	1955年	当館蔵

展覧会関連

入場料割引制度について

平塚市美術館では観覧料金について、20%割引を20名以上の団体に適用している。

また次の方は無料としている。

①小中学生 ②市内在住の60才以上の方 ③平塚市民で身体障害者手帳、療育手帳等の交付者と付添者
また手続きにより無料となる対象の方は次のとおり。

①神奈川県内の高校生およびこれに準ずる者、引率者が教育課程として観覧する場合。

※美術館に連絡し、当日までに美術館で手続きをしてください。

②平塚市内の公民館主催事業による観覧。

※美術館に文書でご依頼ください。

■インターネット割引券

割引券をプリントしてお持ちいただくと、当館の企画展、特集展を割引料金でご覧いただけます。

※PDFファイルで提供しています。A5サイズの用紙にプリントしてください。

I. 美術館主催事業（教育普及）

■教育普及活動について 美術館事業の中心の一つとして開催するもの。教育普及活動のプログラムは、参加者個人の体験を中心にして、美術や美術館について学べるよう、短期のものから長期のものまで企画されている。美術館にとっては、新たな愛好者層の開拓に始まり、美術館活動を理解し支える層の育成を目指している。

市民参加型の長期プログラム

教育普及 1

〈もの〉ワークショップクラブ

種別他 ワークショップクラブ 担当：端山聡子（当館学芸員）
日時他 2005年4月～2006年3月（月8日程度）／主に美術館アトリエで83回開催
活動他 参加人数延べ1,884人：原精一寄贈資料の記録・整理作業の過程で再発見された、平塚ゆかりの洋画大貫松三（材キタツリ）に関する研究活動を行った。聞き取りや文献調べ等の基礎調査にはじまり、最終的に当館企画展「大貫松三展」開催準備から、報告書の作成まで参加した。

教育普及 2

〈ひと〉ワークショップクラブ

種別他 ワークショップクラブ 担当：端山聡子（当館学芸員）
日時他 2005年4月～2006年3月（月2回程度）／主に美術館アトリエで28回開催
活動他 参加人数延べ120人：ワークショップを指導する側になるための人材育成プログラム。一定の研修を受講後に、一般対象あるいは学校と連携した、教育目的のための、ワークショップの開催・指導を行う。美術のワークショップに関わりたい、手伝いたい、企画・運営をしてみたい、また美術を通して人とコミュニケーションをはかりたい等、そのような関心をもつ人のためのクラブ。

教育普及 3

湘南美術散歩

種別他 ワークショップクラブ 担当：端山聡子（当館学芸員）
日時他 2005年4月～2006年3月／月1回（第2土曜日13:00～17:00）／主に美術館アトリエで開催
活動 参加人数延べ96人：湘南の画家や作品をテーマにとりあげる。メンバーの調査研究と発表を中心に、情報や意見交換を行った。テーマに応じて年数回、館外に出かけて、他美術館の作品を鑑賞した。



ものワークショップクラブ展覧会準備するメンバー



ひとワークショップクラブ活動風景

教育普及 4

美術資料をしらべる

- 種別他 ワークショップクラブ 担当：森岩恒明（当館学芸員）
日時他 2005年5月～2006年3月／月2回（第1・第3木曜日13:00～17:00）／主にアトリエで開催
参加数 延べ154人
活動 湘南ゆかりの洋画家、金子保（カネタツ）の『製作覚へ（1924～1957年）』と『日記（1967・1968年）』を講読。資料講読を通じて、湘南地域の近代画家たちとその活動について知識を深め、またデータを探し、読み、まとめるといった美術館における調査研究方法を学ぶ。



湘南美術散歩



文化公園ツアー

短期講座を中心としたプログラム

教育普及 5

藍の生葉で染める

- 種別他 ワークショップ 担当：端山聡子（当館学芸員）+ひとワークショップクラブ
日時他 2005年7月5日（火）
参加者 30人：平塚養護学校生徒（肢体不自由児）15人+教諭15人
活動 養護学校の郊外学習の一環。生徒たちが美術に触れる機会を提供することを目的に開催。バンダナサイズの綿布に藍の生葉で絞り染めをした。

教育普及 6

文化公園ツアー

- 種別他 館外ギャラリーツアー
担当：浜口（博物館）、端山（美術館）、松澤（図書館）、青地（青少年会館）
日時他 ①7月31日（日）朝7:00～9:00 ④10月15日（土）朝7:00～9:00
②8月20日（土）朝9:30～11:30 ⑤11月12日（土）朝7:00～9:00
③8月26日（金）朝7:00～9:00 以上5回
参加者 延べ50人：子ども・一般（コンフォール上倉田自治会ほか）
活動 博物館と美術館による共同プログラム。平塚市の文化公園内において、動植物や石材、彫刻等を観察し身近なものの再発見をした。

教育普及 7

子ども七夕茶会

- 種別他 子どものワークショップ 担当：森岩恒明(当館学芸員) + 〈ひと〉ワークショップクラブ
日時他 2005年7月9日(土)～10日(日) / 各日13:00～16:00 / 美術館前庭、アトリエ、展示室にて開催
参加者 25人：小学生(4年生以上)と中学生
活動 今でも盛んな夏の行事「七夕」をテーマとしたプログラム。七夕の情緒や季節感を楽しみつつ、子どもたちに伝統の文化・芸術に触れるきっかけをつくり、その魅力や広がり伝えた。
- ①七夕展の鑑賞：七夕の由来、伝統行事の種類や変遷などについての展示解説。
 - ②短冊の制作：梶の葉の短冊をつくり、茶席わきの竹に飾り付けた。
 - ③茶会：伝統的な美意識や自然観を反映し、芸術ともいえる日本文化、茶の湯についてレクチャーを受けた後、美術館の前庭に設営した茶席で、実際に茶会を行った。

■活動風景



子ども七夕茶会



アート藍染ワークショップ

教育普及 8

自然の色を染めるー茜染による絞り

- 種別他 一般向ワークショップ 担当：端山聡子(当館学芸員) + 〈ひと〉ワークショップクラブ
日時他 全2回 2006年1月15日(日)・21日(土) / 13:00～16:30 / 美術館アトリエにて開催
参加者 延べ20人
活動 〈ひと〉ワークショップクラブによる茜染めのオリジナルプログラムを、一般参加者を対象に実施。シルクのスカーフを参加者各自が染めた。

教育普及 9

本物に出会う旅Ⅲ アート藍染ワークショップ

- 種別他 一般向ワークショップ 担当：端山聡子(当館学芸員) + 〈ひと〉ワークショップクラブ
日時他 2006年2月18日(土) / 10:00～16:30 / 美術館アトリエにて開催
参加者 20名：香川公民館
活動 〈ひと〉ワークショップクラブメンバーが依頼を受けて開催。バンダナサイズの木綿布を用いて、縫い絞りによる藍染を体験した。

教育普及10

陶板による立体造形(オブジェ)

- 種別他 一般向ワークショップ 担当：端山聡子（当館学芸員）
日時他 全4回 2006年2月5日・19日・26日、3月12日／日曜各日10:00～16:30
美術館アトリエにて開催
講師 三輪太一（陶による造形作家）
参加者 16名：中学生以上から一般
活動 陶による立体造形の可能性を体験。陶板のピースを組立て、塔（タワー）や家のような、想像上の建築物を陶芸窯で焼き上げる。粘土を板状に切って使うタタラづくりという陶芸の手法を応用したものの。

教育普及11

ガラスのレリーフ

- 種別他 一般向ワークショップ 担当：端山聡子（当館学芸員）
日時他 全3回 2006年3月15日・22日・29日／日曜各日10:00～16:30／美術館アトリエにて開催
講師 倉本陽子（ガラス作家）
参加者 25名：中学生以上から一般
活動 陶芸用の窯で、ガラス作品を作成。透明なガラス及び部分的に色ガラスを流し込んで固め、ガラスの立体の上に美しい模様が浮きあがるレリーフ（浮き彫り）を作成した。

■活動風景



ガラスのワークショップ

教育普及12

市民アカデミー「美術館を楽しむ」

- 種別他 一般向ワークショップ 全5回／13:30～15:00／主に美術館アトリエにて開催
参加者 平塚市中央公民館／各回20名参加：延べ100人
日時他 ①レクチャー「**「展覧会を観る－美術館の役割と展示」**
2005年10月25日(火)／担当：森岩恒明（当館学芸員）
②ギャラリー・トーク「**特集展 石井礼子展**
2005年11月9日(水)／担当：土方明司・森岩恒明（当館学芸員）
③レクチャー「**近代日本画と湘南**
2005年11月16日(水)／担当：勝山 滋・森岩恒明（当館学芸員）
④ギャラリー・トーク「**生誕100年目の発見 湘南の洋画家・大貫松三展**
2005年12月7日(水)／担当：端山聡子・森岩恒明（当館学芸員）
⑤ギャラリー・トーク「**特集展 湘南ゆかりの作家－濱谷浩一展**」&美術館バックヤード・ツアー
2005年12月21日(水)／担当：郡司亜也子・森岩恒明（当館学芸員）

I. 美術館主催事業（その他）

臨時行事 1

サマーナイトアート ビジュアル・アートの世界

日 時 2005年8月2日(火)～7日(日)・9日(火)～14日(日) 各日19:00～20:00/開催日数12日間
主催他 平塚市美術館/担当:小澤和孝
観覧者 延べ416人(観覧無料)
協 力 多摩美術大学美術学部/art space kimura
協 賛 株式会社アイメックス/株式会社足立機械製作所/荒井商事株式会社/大塚会計事務所/
神奈川県トラック協会平塚地区支部/神奈川県中央交通株式会社/株式会社橘田生産工業所/
株式会社米善本店/相模石油株式会社/株式会社品川鐵工場/湘南造園株式会社/
日産車体株式会社/平塚信用金庫/株式会社フリーデン

活 動 地域に「親しまれる美術館」活動の一環として、夏の夜の通りすがりに気軽に美術に触れられるよう、ビジュアル・アートを紹介した(2005年5月末現在、こういうことは国内美術館では初めての試み)。DVDに集約した4作家の作品(計約1時間)を、館内に設置した映写機から、美術館の前庭側ガラス面に投影し、前庭の芝生から鑑賞できるようにした。画像サイズは縦2.8m横5.2mほど。今回の企画の実現にあたっては、隣接の周辺企業と多摩美術大学から理解と協力が得られたことによる。

■出品作家と作品

小瀬村真美 《四季草花図》
小林 一浩 《襷》
佐々木成明 《森》《夏宇宙》《二次元都市》《退屈な風景》
高橋 周平 《Album》

臨時行事 2

美術館テーマホール・コンサート

■企画の目的

展示室が大規模改修のため長期閉室となる2006年1月から3月の期間中に、より多くの市民に美術館を訪ねてもらえるよう、また「親しまれる美術館」活動の一環として、テーマホール・コンサートを企画した。

題 名 「冬のコンサート イン ミュージアム～シューマンから冬ソナまで～」

日時他 2006年2月18日(土)/13:30開場-14:00開演/入場無料

演奏者 バイオリン:高梨真実/ピアノ:峯麻衣子/チェロ:大澤哲弥
(3名とも東京芸術大学音楽学部在籍)

曲 目 《シューマンのピアノ三重奏》《冬のソナタ》他

入場者 座席チケットは先着170名に配布。テーマホール階段等を利用し、総計約400名を受入れた。

組 織

「平塚市美術館友の会」活動

■歩みと活動状況

2002（平14）年4月に発足。会員は美術館主催事業または連携事業を通じて交流をもち、各自の知識と教養を深め、平塚市の文化芸術の向上に寄与することを目的に設立された。会員には、年間予定パンフレットや企画展チラシ等を優先して送付。各種催し、会員対象の「友の会」レクチャーの案内をしている。2004（平16）年4月から会員特典を実施、観覧料を特集展では団体料金を適用、企画展は一律100円を減免とした。「友の会」減免利用者は、毎月平均して減免全体の約5%を占めている。

■「友の会」会員数と構成

会員数 総計509人 ※2006年2月末現在

- ①市内外内訳 市内会員259人(50.9%)、市外会員242人(47.5%)、県外会員8人(1.6%)
②年代別内訳 10代=4人(0.8%)、20代=11人(2.2%)、30代=22人(4.3%)、40代=49人(9.6%)、
50代=155人(30.5%)、60代=171人(33.6%)、70代=77人(15.1%)、80代=11人(2.2%)、
不明=9人(1.7%)

■「友の会」講座（ギャラリートーク）

- 第1回 「麻田鷹司と現代日本画展」担当：勝山 滋（当館学芸員）／5月22日（日）／参加者25人
第2回 「三岸節子展」 講師：勝山 滋（当館学芸員）／8月20日（土）／参加者40人
第3回 「大貫松三展」 講師：端山聡子（当館学芸員）／11月23日（祝）／参加者28人

II. 美術館共催事業

共催企画 1

テーマホール・コンサート

■コンサートの位置づけ

今年（2005年）で10周年を迎えた七夕コンサートは、地元企業「平塚ステーションビルラスカ」が組織し、今では格安料金で優れた音楽家の演奏会を楽しめることで、市民によく知られている。平塚市美術館側では、多くの人々に美術館を訪れてもらう機会づくりとしてテーマホールを提供、この企画に協力している。

- 題 名 第10回 美術館で聴く七夕コンサート バロックの煌き Vol.2
曲 目 J.S. バッハ：ブランデンブルグ協奏曲 第2番 ヘ長調 BWV1047
J.S. バッハ：オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1060／他
日時他 2005年7月6日（水）／18:30開場～19:00開演／美術館テーマホールにて開催
演奏者 オーボエ：渡辺克也（ベルリン・ドイツオペラ首席奏者）
ヴァイオリン：木野雅之、佐分利恭子
ヴィオラ：百武由紀
バロック・トランペット：田宮堅二（元ベルリン・ドイツオペラ首席奏者）
チェロ：山本祐ノ介、三宅進／他
主催他 湘南ステーションビル平塚ラスカ
後援：平塚市／平塚市文化財団／平塚商工会議所／JR平塚駅
入場者 約280人

共催企画 2

第28回平塚市展

平塚市美術館が開館した1991年に、平塚市展は第14回展を美術館の展示室と市民アートギャラリーを使用して開催、以降毎年、同施設を利用して開催している。

主催	平塚市展委員会
会期	6月12日(日)～6月26日(日)／開催日数13日間
会場	美術館展示室Iと市民アートギャラリーにて開催
協力	平塚書道協会／平塚工芸部門／平塚美術家協会／平塚写真連盟／平塚市教育委員会
後援	平塚市／平塚市文化連盟／平塚商工会議所／湘南ケーブルネットワーク／FMM湘南
作品数他	約380点／観覧者5,985人

Ⅲ. 研究活動と作品広報活用

研究

講演・講座等

研究会	2005美術館教育国際研究会 2005 International Symposium on Art Museum Education Stride into Art -the Collaboration Between Artists and Museum Educators
日時他	2日間：2005年9月10日～11日
主催	台北市立美術館（台湾）Organized by：Taipei Fine Art Museum
招聘者	端山聡子（当館学芸員） 平塚市美術館における教育普及活動についての講演／9月11日 11:20～12:00

広報

美術館ホームページ・作品解説等

■ホームページの作成と刷新 担当：郡司亜也子（当館学芸員）

2005（平17）年度は、閲覧者が求める情報にすみやかにアクセスできるよう、見やすくわかりやすいページの充実をはかった。《利用案内》では、インターネット割引券発行のお知らせ、企画展共通観覧券の案内、美術品等取得のための口座案内等、新サービスや制度の紹介に力を入れた。

《展覧会》の項目では、開催中・開催予定の展覧会一覧ページを新たに作成し、そこから各展覧会の詳細ページへのジャンプを可能にした。また過去の展覧会の詳細情報を順次追加した。《教育普及プログラム》では、開催中・開催予定のプログラムの一覧ページを作成し、随時参加者の募集を行った。《貸出施設》では、市民アートギャラリー、ミュージアムホールの利用案内に、アトリエの貸出し情報を追加した。この他、コンサート等のイベント案内、レストランのテナント募集といった事柄もページ上に掲載し、広く情報を発信した。

○URL	http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/
○更新回数	12回
○更新方法	美術館で更新ファイルを作成・入稿。平塚市情報システム課を通してアップロード。
○アクセス数	約12,000アクセス。

IV. 実習・研修・調査等の受け入れ

実習 1

博物館実習

時 期 2005年5月～2006年3月頃／断続的に総計15日間実施（共通講義3日間／実習12日間）
主 催 他 各13申請大学／平塚市美術館／総括担当：端山聡子（当館学芸員）
内 容 他 実習生15人（詳細は下記の通り）：担当学芸員の指導のもと美術館の学芸活動全般を体験

1. 池田 清香	明 治 学 院 大 学	4 年 生	担当：勝山
2. 高梨 麻世	多 摩 美 術 大 学	4 年 生	担当：勝山
3. 廣石 好美	東 京 造 形 大 学	4 年 生	担当：郡司
4. 佐々木彩子	実 践 女 子 大 学	4 年 生	担当：郡司
5. 熊沢 淑江	共 立 女 子 大 学	3 年 生	担当：端山
6. 井上 佳奈	共 立 女 子 大 学	4 年 生	担当：端山
7. 小川佳恵子	東 京 女 学 館 大 学	4 年 生	担当：端山
8. 大内田聖徳	東 海 大 学	4 年 生	担当：端山
9. 深澤 奈美	東 京 造 形 大 学	4 年 生	担当：端山
10. 戸井田良子	日 本 女 子 大 学	4 年 生	担当：端山
11. 川崎 美侑	武 蔵 大 学	4 年 生	担当：土方
12. 尾崎 友里	横 浜 美 術 短 期 大 学	2 年 生	担当：土方
13. 佐藤美津絵	関 東 学 院 大 学	4 年 生	担当：森岩
14. 渡邊真理絵	昭 和 音 楽 大 学	4 年 生	担当：森岩
15. 伊藤さやか	東 海 大 学	4 年 生	担当：森岩

研修 1

新入社員を対象とした研修

参 加 者 平塚ステーションビル「ラスカ」新入社員10人
日 時 他 4月7日(木) 館内見学と展覧会鑑賞。担当：郡司亜也子（当館学芸員）

研修 2

神奈川県内の生徒を対象とした研修・全4回

参加者他 4月28日(木) 平塚市適応指導教室11人／二見利節展見学。担当：端山聡子（当館学芸員）
7月12日(火) 神奈川県立大磯高校（総合的な学習の時間）20人／
担当：郡司・森岩（当館学芸員）
7月23日(土) 神奈川県立大原高校（体験授業）15人／担当：郡司亜也子（当館学芸員）
※上記2校ともに美術館活動のレクチャー、館内見学、「七夕展」の展示解説を受講。
12月13日(火) 平塚市適応指導教室13人／大貫松三展展示解説／担当：端山聡子

研修 3

JICA海外研修生の滞在プログラムの実施

- 時 期 全5日間：2005年7月5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)・9日(土)
- 主 催 他 JICA (ジャイカ=国際協力機構) / 平塚市博物館と平塚市美術館の共同受け入れ事業
美術館側担当：端山聡子 (当館学芸員) ※JICA・国立民俗学博物館・琵琶湖博物館からの依頼による。
- 研 修 者 海外研修生3人 (国籍：スリランカ、ケニア、中国)
ピーターさん：Mr. Peter Gero Okwaro ケニア国立博物館教育部主任
リーニンさん：Ms. Kong Li-Ning 秦始皇帝兵馬俑坑博物館 学芸員
ナヤナさん：Ms. Nayana Darshani Perera スリランカの国立博物館局 国立自然史博物館館長
- 内 容 ①「茶の湯の歴史」レクチャーの受講/担当：ひとワークショップメンバー
② 平塚市内の崇善小学校、山城中学校、神田高校を訪ね授業に参加。研修生によるスライドレクチャー開催。
③「美術館の管理運営」レクチャーの受講：小澤和孝 (当館管理担当長)
④ JICA研修生によるスライドレクチャーとワークショップ
⑤ ワークショップ「子ども七夕茶会」への参加/担当：ひとワークショップメンバー+森岩恒明 (当館学芸員)

研修 4

神奈川県内の教員を対象とした研修・全4回

- 参加者他 7月28日(木) 伊勢原市太田小学校教員 22人/中野展、三岸展解説/
担当：端山聡子 (当館学芸員)
- 8月11日(木) 神奈川県美術科教員 (研修) 16人/担当：端山聡子
- 8月24日(木) 神奈川県美術科教員 (10年目研修) 4人/担当：端山聡子
- 8月25日(木) 平塚市小学校教育委員会70人/展示と美術館活動解説/担当：端山聡子

研修 5

平塚市文化財ボランティア協会会員を対象の研修

- 参加者他 12月3日(土) 平塚市文化財ボランティア/14:00~16:00/担当：端山聡子 (当館学芸員)
- 内 容 他 平塚市美術館の沿革と活動についてのレクチャー、また館内バックヤードの見学

調 査

論文作成のための美術館調査に対応・2回

- 調査日① 7月27日(水) 担当：郡司亜也子 (当館学芸員)
- 内 容 他 慶応義塾大学4年生：デジタルアーカイブに関する卒業論文のためのインタビュー調査
- 調査日② 8月5日(金) 担当：森岩恒明 (当館学芸員)
- 内 容 他 学習院大学大学院生：博士論文作成のための作品調査

V. 作品と資料の管理（保存・修復）

保存修復 1

所蔵絵画作品の修復

■修復作品 1 井上三綱 《風景習作》／制作年不詳／油彩・キャンバス／サイズ33.7×66.7cm

現 状：タックスが完全に留まっていない不安定な状態。画布の穴や裂けが画面一部に生じている。湿気の影響が極端である個所には、絵具の変色（カビが確認できる）、剥離、小欠損、小亀裂が生じている。

支持体：側面の画布に浮いている部分がある。上側面の画布は木枠の湿気の影響で、他の側面に比べ地塗りがもろい状態。水染みのような画布の変色とカビが確認された。

絵画層：画面左上から5.5cmの幅で、絵画層に無数の亀裂が生じている。亀裂の周辺は浮き立って剥離しかけている部分があり接着を要する。右角から左に向かい、湿気による白い変色を確認。

修 復：①作品状態調査・現状の撮影 ②作品表面の剥離止め ③側面部分補強 ④張り直し ⑤作品洗浄 ⑥剥落部分の絵具充填・補彩、および作品表面に保護膜塗布 ⑦報告書作成

■修復作品 2 井上三綱 《夏》／制作年不詳／油彩・キャンバス／サイズ36.9×74.9cm

現 状：作品画布の下に、さらに一枚別の作品（「夏」と題された作品）が貼られている。画面には部分的にわずかに波打があり、カビ、変色が生じている。

支持体：作品画布の下に作品「夏」が存在。「夏」を描き上げた後、本作品を描くため新たに画布を張ったと推測される。取り外した画面裏に、大きな濃茶色のシミ3ヶ所を確認。部分的に下の絵「夏」の上層絵具片が付着。木枠裏面の右上角と右下角の棧の下接部分に、水染みのような変色あり。

絵画層：画面右上に小亀裂が生じている。右から20cm、上から5cmの範囲でカビが付着し、白く変色。

修 復：①作品状態調査・現状の撮影
②表面の剥離止め：タックスを抜き、木枠から作品を取り外した後、「夏」の剥離片を固着
③画布裏面の処置 ④支持体矯正 ⑤周辺部補強 ⑥裏打ち、木枠新調 ⑦作品洗浄
⑧報告書作成

保存修復 2

彫刻と立体のメンテナンス

平成17年度は例年通り、6点の彫刻・立体に、酸性雨水による腐食防止のための保存処理を行った。

作家名	作品名	素 材	サイズ(cm)	メンテナンス
1 ホセ・デ・リヴェラ	《コンストラクション #115》	ステンレススチール	612.0×853.0×912.0	本体のクリーニングと回転部メカニズムの保守点検
2 保田 春彦	《赤錆の幕舎》	COR-TEN鋼	257.0×296.0×209.0	グランドライン設置面の腐食防止、メンテナンス
3 佐藤 忠良	《緑》	ブロンズ	190.0×80.0×70.0	洗浄後、ワックス塗布
4 舟越 保武	《海の顕彰碑 渚》	ブロンズ	194.0×60.0×50.0	洗浄後、ワックス塗布
5 柳原 義達	《座る女》	ブロンズ	71.0×100.0×45.0	洗浄後、ワックス塗布
6 淀井 敏夫	《海》	ブロンズ	340.0×230.0×90.0	洗浄後、ワックス塗布

保存修復 3

収蔵庫虫害調査（虫害モニタリング）

日時他 2005年(平17)12月15日(木)～27日(火)／担当：勝山滋（当館学芸員）

場 所 美術館収蔵庫Ⅰ・Ⅱと特別収蔵庫の3ヶ所で調査

報 告 目視調査と粘着トラップ（採取器）による調査

上記の調査二つを併せて行った。収蔵庫Ⅰの床に設置したトラップは次のとおり：ゴキブリ用粘着トラップ8個、ジンサンシバンムシ用フェロモントラップ（FUJI TRAP S.PANICEUM）8個、タバコシバンムシ用トラップ（NEW SERRICO）8個の総計24個。収蔵庫Ⅱと特別収蔵庫には、ゴキブリ用、ジンサンシバンムシ用、タバコシバンムシ用トラップを各1個ずつ配置。

目視調査は床、棚、作品を懐中電灯で照らし、昆虫やその死骸、脱皮殻、虫糞、食痕の有無等を調べた。トラップも目視調査実施と同日（12月15日）に設置、12日後の27日に回収した。目視調査の結果、床面から蚊の成虫死骸1個が採取された。収蔵品に付着して収蔵庫内に持ち込まれたか、外部からたまたま侵入したものと推察。

トラップ調査の結果、収蔵庫Ⅰの1階でヒラタチャタテ成虫6匹が捕獲された。特別収蔵庫では昆虫類は捕獲されなかった。現時点ではヒラタチャタテの繁殖は考えられず、くん蒸や薬剤処理等を行わずに済むよう、今後も湿度管理を徹底することとした。

V. 作品と資料の管理（収集・貸出）

作品管理 1

新規収蔵作品一覧

■平成16年度の収蔵作品は、購入4点、寄贈8点、寄託53点の計66点。作品分類別内訳は下表の通り。

所蔵経緯	登 録 部 門							計
	日本画	洋画・素描	版 画	彫刻・立体	工 芸	書	写 真	
購 入	4	0	0	0	0	0	0	4
寄 贈	2	6	0	0	0	0	0	8
移 管 替	0	0	0	0	0	0	0	0
寄 託	49	3	0	1	0	0	0	53
計	55	9	0	1	0	0	0	65

■購入作品リスト

	作家名	作 品 名	制作年	寸法(mm)	材 質 技 法	購入先
1	工藤 甲人	冬玄郷一妝	1992年	160.2*197.2	顔彩・紙	工藤 甲人
2	工藤 甲人	寂光土	1994年	197.0*160.0	顔彩・紙	工藤 甲人
3	工藤 甲人	予兆	1998年	197.0*160.0	顔彩・紙	工藤 甲人
4	中野 嘉之	刻	2004年	190.5*690.0	彩色・紙	中野 嘉之

■寄贈作品一覧

	作家名	作 品 名	制作年	作品寸法(mm)	材 質 技 法	寄贈者
5	石井 礼子	忙しい日 I	2002年	2115*1530	墨・紙	石井 礼子
6	石川 響	燈火	1995年	220.0*170.0	彩色・紙	石川 節子
7	石川 響	流燈	1996年	170.0*217.0	彩色・紙	石川 節子
8	江添栄一郎	砂丘上の船・平塚の海辺	1952年	(80号)	油彩・キャンバス(絹地)	江添栄一郎
9	江添栄一郎	砂丘と網と魚	1953年	(100号)	油彩・キャンバス	江添栄一郎
10	江添栄一郎	造船所	1953年	(100号)	油彩・キャンバス	江添栄一郎
11	田澤 茂	羅漢さん・遊	1991年	1621*1940	油彩・キャンバス	田澤 茂
12	田澤 茂	魍魅魍魎・銀	1999年	1940*1300	油彩・キャンバス	田澤 茂



石川 響



工藤甲人



田澤 茂



江添栄一郎

作品管理 2

貸与作品一覧

■貸出し方針について 他美術館等からの所蔵作品の貸出し要請に対し、開催される展覧会の内容や意義、作品の状態や常設展示への出品予定の有無などを考慮し、2006(平17)年度は、下記の作品計9点を貸出した。

展覧会名	貸出作品	貸出点数	会 場	会 期
りんごの美術	工藤 甲人《愉しき仲間(一)》	1点	ひろしま美術館	2005. 4. 23~2005. 6. 5
近代日本画の美~美人画の世界~	楠木 清方《洛外の春》 北澤 映月《女人卍》 中村 貞以《蜚》	3点	駿府博物館	2005. 10. 1~2005. 11. 6
修羅と菩薩のあいだで ~もうひとりの人間像~	大島 哲以《鳥儒激戦》 近藤 弘明《幻光-御感の藤》 近藤 弘明《寂韻苑》	3点	京都市立美術館	2005. 10. 25~2006. 1. 15
日本近代絵画の巨匠たち ~知られざる名作を集めて~	鳥海 青児《ピカドール》	1点	東京美術倶楽部	2006. 2. 5~2006. 2. 26
歴史浪漫展~源平の時代を中心に~	安田 靱彦《宇治合戦図》	1点	茨城県近代美術館	2006. 2. 11~2006. 3. 21

VI. 美術館施設の管理

施設管理 1

展示室可動壁クロス張替え作業

- 施工期間 2006年1月6日(金)～2006年3月23日(木)
内 容 開館以来使用してきた展示室可動壁について、新しくクロスの張替え作業を行った。
備 考 2006年1月から3月まで展示室は閉室され、この間の展覧会は休止した。

施設管理 2

防災訓練・消防設備点検

- 防災訓練 実施日時：2005年5月18日(水) 9:00～9:30
訓練内容：美術館1階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、施設利用者80名が来館中と想定。学芸員と展示監視員による消火、避難誘導および消火器操作訓練を行った。
- 消防点検 点検期間：2005年5月30日(月)～6月4日(土)
備 考：消防点検と展示替えをあわせて実施、この間2階展示室は閉室した。

施設管理 3

美術館施設の貸出について

■ミュージアムホール

- 講演会、演奏会、映写会、会議等の開催について利用可能（床面積は262㎡、座席数最大150席程度）。
- 利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。

申込手続

- 美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付
- 受付は利用日の6ヶ月前の日から利用開始7日前まで。9:30～17:00
- ピアノ・マイク等、その他設備の有料貸出しも行っている。

利用日時

- 美術館事業で使用していない開館日に限る。利用可能日についてはお問合せください（管理担当0463-35-2111）。
- 利用は半日単位で連続2日間まで。利用時間は、午前が9:30～12:30、午後が13:00～16:50、全日利用が9:30～16:50。

使用料

利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
午前● 9:30～12:30	2,000円	3,000円
午後● 13:00～16:50	3,000円	4,500円
全日● 9:30～16:50	5,000円	7,500円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

■市民アートギャラリー

- 絵画、彫刻、工芸、書、写真等の美術に関する展示希望者への貸出しが可能。希望者多数の場合は抽選となる。
- 施設規模は、天井高が3.5m、床面積(A室)が215㎡、床面積(B室)が149㎡、A B全室利用が365㎡、標準壁面長がA室で68m、B室が57m、A B全室利用で120m。
- 利用希望者の申込みは一団体(個人) 1件する。申込み手続きは、受付期間に以下の順序で行っている。

申込手続

- 展覧会計画書(館所定の用紙)の提出→審査→抽選・調整→美術館施設利用申込書の提出→使用料の納入→美術館施設利用承認書の交付

受付期間

- 10月から3月の間に利用希望の場合：4月1日～10日
9:30～17:00(5月1日～は空室があった場合のみ、利用開始7日前まで)
- 4月から9月の間に利用希望の場合：10月1日～10日
9:30～17:00(11月1日～は空室があった場合のみ、利用開始7日前まで)

利用期間と日時

- 1日単位で最大1週間(6日間以内=火曜日から日曜日)まで利用可能。時間は9時半から17時まで。美術館休館日(月曜日定休)は利用不可。

使用料

利用希望場所	平塚市民・団体	平塚市外
全室(1日)	10,000円	15,000円
A室(1日)	6,000円	9,000円
B室(1日)	4,000円	6,000円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

■アトリエA室・B室

- 絵画・彫刻・工芸等の制作希望者への貸出しが可能(床面積はA室157㎡、B室111㎡)。
- 利用希望者の申込みは一団体(個人) 1件する。

利用日時

- 美術館事業で使用していない開館日に限る。利用可能日についてはお問合せください(管理担当0463-35-2111)。
- 利用は半日単位で6日間まで
●午前利用が9:30～12:30 ●午後利用が13:00～16:50 ●全日利用が9:30～16:50
- 美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付
- 受付は利用日2ヶ月前の日から利用開始7日前まで、9:30～17:00です。

使用料

利用場所	利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
アトリエA	午前● 9:30～12:30	1,000円	1,500円
アトリエA	午後● 13:00～16:50	1,500円	2,250円
アトリエA	全日● 9:30～16:50	2,500円	3,750円
アトリエB	午前● 9:30～12:30	700円	1,050円
アトリエB	午後● 13:00～16:50	1,100円	1,650円
アトリエB	全日● 9:30～16:50	1,800円	2,700円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

VII. 美術館定例会議

定例会議 1

美術館協議会

■協議会委員一覧 8名（順不同・敬称略）

新関 八紘（ニゲキ ヤツヒロ）	学識経験者	小宮 節子（コミヤ セツコ）	学校教育関係者
山梨 俊夫（ヤマシ トシオ）	学識経験者	加藤 恭夫（カトウ キョウヂ）	学校教育関係者
國澤 健一（クニサキ ケンイチ）	学識経験者	長谷川平男（ハセガワ ヒロオ）	社会教育関係者
朝野 哲夫（アサノ テツオ）	学校教育関係者	篠塚 淳子（シノヅカ ジュンコ）	社会教育経験者

第1回 日時他 2005年(平17)8月24日(水)／午後2時から美術館研修室にて開催
出席者 委員7名：新関八紘、山梨俊夫、國澤健一、朝野哲夫、加藤恭夫、長谷川平男、篠塚淳子
欠席者 委員1名：小宮節子
議 題 ○委員の委嘱 ○前年度(平成16年度)実績報告 ○上半期の予定

第2回 日時他 2006年(平18)3月16日(木)／午後2時から美術館研修室にて開催
出席者 委員7名：新関八紘、山梨俊夫、國澤健一、朝野哲夫、小宮節子、長谷川平男、篠塚淳子
欠席者 委員1名：加藤恭夫
議 題 ○今年度(平成17年度)実績報告 ○来年度(平成18年度)予定のお知らせ

定例会議 2

美術品選定評価委員会

■選定評価委員会委員一覧 5名（順不同・敬称略）

陰里 鉄郎（カゲリ テツロウ）	学識経験者	太田 泰人（オウダ ヤスト）	学識経験者
加藤 弘子（カトウ ヒロコ）	学識経験者	田中 淳（タナカ アツシ）	学識経験者
諸山 正則（モロヤマ マサノリ）	学識経験者		

日時他 2005年11月30日(水)／14:00～16:00／美術館研修室にて開催
出席者 委員4名：陰里鉄郎、加藤弘子、諸山正則、太田泰人
欠席者 委員1名：田中淳
議 題 今年度(平成17年度)の寄贈・寄託作品の評価と収蔵の是非について

VIII. 平成17年度 美術館施設利用者等の統計

統計 1

展示観覧者数

※2006年(H17)1月～3月まで展示室の大規模修繕があり、
展示室は閉室、展覧会は休止した。

月	企画展	特集展	観覧者数
4月	750人	1,110人	1,860人
5月	3,617人	3,002人	6,619人
6月	—	1,195人	1,195人
7月	2,287人	3,084人	5,371人
8月	8,958人	7,842人	16,800人
9月	6,794人	7,033人	13,827人
10月	2,856人	2,698人	5,554人
11月	2,494人	2,282人	4,776人
12月	1,768人	1,310人	3,078人
1月	—	—	—
2月	—	—	—
3月	—	—	—
合計	29,524人	29,556人	59,080人
前年度末	616,193人	542,386人	1,158,579人
開館以来	645,717人	571,942人	1,217,659人

統計 2

学校団体の利用

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	4校	299人	22人	13校	843人	60人
	市外	5校	472人	21人	9校	856人	36人
中学校	市内	3校	21人	7人	4校	26人	9人
	市外	1校	10人	5人	2校	17人	6人
高等学校		2校	27人	5人	2校	33人	2人
合計		15校	829人	60人	30校	1,775人	113人

統計 3

美術館 各施設の利用日数

月	開館日数	市民アートギャラリー	ミュージアムホール
		利用日数	利用日数
4月	26日間	21日間	10日間
5月	26日間	26日間(=全開館日数)	なし(企画展で使用)
6月	26日間	17日間	6日間
7月	27日間	23日間	8日間
8月	26日間	25日間	なし(企画展で使用)
9月	26日間	26日間(=全開館日数)	7日間
10月	26日間	25日間	なし(企画展で使用)
11月	26日間	23日間	2日間
12月	24日間	21日間	2日間
1月	24日間	22日間	3日間
2月	24日間	22日間	5日間
3月	27日間	27日間(=全開館日数)	10日間
合計	308日間	278日間	53日間

統計 4

市民アートギャラリーの利用状況

■利用団体と展覧会名一覧：2005年4月～2006年3月

月	利用日数	団体数	入場者数	利 用 団 体 名
4月	21日間	5団体	4,187人	2005.和田造形絵画作品展、ハーモニーオブ・ザ・テーブルテーブル コーディネイト展、県民書連役員選抜展、フォト四季写真展、柳彩 会絵画展
5月	26日間	7団体	6,533人	夢キルトⅢ、寂静会 想展、此君会水墨画展、陶房芳乃和作品展、 「時と風と色」展、山家直第12回パステル展、木軸展
6月	17日間	1団体	3,330人	平塚市展
7月	23日間	7団体	5,397人	パッチワークキルト展、第9回全国七夕競書大会、第3回「平和を 語りつぐ」、松本和子展、陶悠会作品展、水美日彩会展、画材&ギャ ラリーOCTオクト アクリル画サークル展
8月	25日間	6団体	4,932人	すさ美展、風景の中で・杉崎力展、平塚書道協会展、第22回湘南写 真家協会写真展、湘南工房陶芸教室作品展、教員美術展
9月	26日間	7団体	7,390人	青い鳥アートスクール・アールヴィヴァン湘南美術展、2005第41回 JRP湘南支部写真展、紙に描く展4、第61回平塚美術家協会展、 公募、第20回記念 湘南市民美術展、第13回カナガワビエンナーレ 国際児童画展、陶芸サロン遊覧会作品展
10月	25日間	5団体	4,160人	オリンパスズイコークラブ第8回写真展、湘南窯友の会、親と子によ る写生会展示会、ハーモニーオブザテーブル作品展、平塚市文化祭
11月	23日間	6団体	9,757人	夢工房ステンドグラス展、寡黙と饒舌の間から、幼小図工作品展、 35周年記念 2005平塚写真連盟 写真展、第7回透彩会展、魅陶会
12月	21日間	4団体	3,006人	第8回早蕨会書展、第11回旭彩会水彩画展、キルトハウス自由作品 展、日本画なでしこ会展
1月	22日間	4団体	4,265人	波の子造形教室作品展、“ぐうちよきばあ展”、平塚市保育園児童絵 画展、東海大学アート&デザイン展
2月	22日間	6団体	4,114人	香雲&紅水書友展、心創展、アート21第七回油彩画展、なかよし作 品展、中学校美術展、銀杏カルチャー教室絵画展
3月	27日間	8団体	6,572人	陶悠会作品展、陶芸クラブ有雅陶、ひまわりの会展、二人展、公募、 第3回 湘南市民小品展、第3回湘南画遊展、樟の会作品展、花の トールペイントと水彩from English garden展2
計	278日間	66団体	63,643人	

統計 5

市民アートギャラリーの入場者推移

平成15年度 (2003.4～2004.3)	71件	62,732人
平成16年度 (2004.4～2005.3)	61件	52,370人
平成17年度 (2005.4～2006.3)	66件	63,643人

■市民アートギャラリー会場風景



会場風景 1



会場風景 2



会場風景 3



会場風景 4



会場風景 5



会場風景 6

統計 6

美術館 ミュージアムホールの利用状況

月	利用 日数	利用曜日		利 用 団体数	入場者数 (人)	内 訳
		土・日	その他			
4月	10日間	6	4	10件	707人	音楽会 7 件、市事業 3 件
5月	—	—	—	—	—	★麻田鷹司と現代日本画展で会期中使用
6月	6日間	4	2	6件	450人	音楽会 4 件、市事業 2 件
7月	8日間	3	5	8件	562人	音楽会 5 件、市事業 3 件
8月	—	—	—	—	—	★三岸節子展で会期中使用
9月	7日間	3	4	7件	580人	音楽会 2 件、市事業 4 件、講演等 1 件
10月	—	—	—	—	—	★大貫松三展で会期中使用
11月	2日間	1	1	2件	230人	市事業 2 件
12月	2日間	2	0	2件	140人	音楽会 2 件
1月	3日間	3	0	4件	170人	音楽会 4 件
2月	5日間	2	3	5件	310人	音楽会 2 件、市事業 3 件
3月	10日間	7	3	10件	702人	音楽会 8 件、市事業 1 件、講演等 1 件
計	53日間	31	22	54件	3,851人	

IX. 平塚市美術館の沿革

沿革

1971年～2006年3月までの動き

1971年(S46)

11月○フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。

加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

1977年(S52)

3月○新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。

9月○企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

1982年(S57)

5月○社会教育委員会議議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

1984年(S59)

4月○石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。

5月○「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。

9月○平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

1985年(S60)

7月○「平塚市美術館基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。

※構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

1986年(S61)

3月○「平塚市美術館基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館として、メインテーマを「湘南の美術・光」とする。

4月○「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。

○「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。

9月○「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催し、9社からの提案を審査。

1988年(S63)

1月○大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。(株)日建設計と委託契約。

4月○「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

1989年(H元)

3月○「仮称平塚市美術館建新築工事(本体工事費)」の議決なされる。

7月○14日「平塚市美術館建設」起工。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長をはじめ関係者約70名が出席。

1990年(H2)

10月○「平塚市美術館本体工事」竣工。

12月○「平塚市美術館条例」公布。

1991年(H3) ■平塚市美術館開館

3月○美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。

3月○25日:平塚市美術館開館(初代館長に原田実氏が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開開始。

開館記念展「スイス プチバレ美術館名品展ータルコフとエコール・ド・パリの画家たちー」～5月5日まで。

5月○18日:開館記念展「湘南の萬鉄五郎」～6月16日まで。

7月○「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

1992年(H4)

3月○「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧君作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」開催：3月20日～4月19日。

7月○第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。

11月○「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催：11月14日～12月13日

1993年(H5)

7月○博物館実習生の受け入れを開始。

1993年(H6)

3月○教育普及活動関連冊子ワークショップオリジナルブック「読むワークショップ」の刊行開始(年2冊～1999年)。

1995年(H7)

4月○教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

1996年(H8)

11月○開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催：11月9日～12月22日。

10月○美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

1997年(H9)

4月○2代目館長に福田徳樹氏(フクダトキキ) 就任。

1999年(H11)

5月○常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

2000年(H12)

7月○「第50回湘南ひらつか七夕まつり歴史回顧展」開催：後援に冷泉家時雨亭文庫

10月○平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

2001年(H13)

7月○開館10周年記念展「湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで」開催：7月26日～9月30日

2002年(H14)

2月○開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力」開催：2月9日～3月24日

4月○「平塚市美術館友の会」発足。

11月○市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催：11月2日～12月23日

2003年(H15)

2月○「神奈川大学図書館所蔵 バリ・コミュニケーションの風刺画 —1871年ペンと大砲の市民革命」展開催：2月2日～3月30日 ※平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズⅢ

2004年(H16)

4月○3代目館長に、草薙奈津子氏(クサキナツコ) 就任。

2006年(H18)

1月○展示室可動壁のクロス張替え作業(1月～3月休室)。



建設中の美術館

X. 美術館の組織・運営

	館長	副館長	管理担当	学芸担当	計
常 勤		1人	6人	6人	13人
非 常 勤	1人			1人	2人

■美術館組織図：2005年4月～2006年3月



平成17年度（2005.4—2006.3）

平塚市美術館年報

編集/発行 平塚市美術館 〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

TEL:0463-35-2111 FAX:0463-35-2741

E-mail:art-muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp

印刷 神奈川印刷株式会社 〒254-0042 平塚市明石町3-6

TEL:0463-22-3344 FAX:0463-21-0234

平成18(2006)年9月1日発行

Annual Report of the Hiratsuka Museum of Art, 2005

Printed in JAPAN
